

Let's Smile and Say "Hello"

～ 笑顔でひと声かけよう ～

サンプラザ

第 77 号

平成30年10月20日発行

北海道胆振東部地震を経験して 理事長 馬場 雅人

災害支援ナース活動 2病棟 中村 真希

施設見学～札幌市立ひばりが丘小学校～

学会参加報告

消火・避難訓練

医療安全研修会開催

神吉院長 講演会のご報告

医療のげんば紹介【3病棟編】

マラソン大会参加の記録

西日本豪雨災害募金について

藻岩山登山

金博士の『本音で語ろう』"高令者と社会環境"

総合診療科 金 有世

お知らせ「インフルエンザワクチン予防接種」

医療法人サンプラザ 新札幌循環器病院

北海道胆振東部地震を経験して

理事長 馬場 雅人



9月6日未明の地震から2週間が過ぎ、体に感じる余震も少なくなって参りました。地震で犠牲になった多くの方々に心から哀悼の意を表すとともに、いまだに避難所で不自由な生活を続けておられる被災者の皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

この度の震災では地震後の全道的な停電、ブラックアウトにより、全ての公共交通機関は止まり、交通信号も機能しないという非常事態となりました。そんな中、当病院の職員の皆さんはそれぞれあらゆる知恵を絞り、細心の注意を払って病院へと出勤し勤務してくれました。

また、院内では自家発電により最低限の病院機能を維持していたとはいうものの、限られた電力使用のため薄暗く不自由な状態の中、患者さんたちを不安にさせないようにいつも通りの表情で働いてくれました。幸い、病院は6日の午後7時には停電から回復しましたが、食材の流通がストップしたため職員食堂が閉鎖となり、またスーパーやコンビニからも当座食べられる食糧が消えたため、当直職員の食べ物に不自由するという状態が続きました。疲労と不安と空腹が募る中でも不満を言わずに懸命に働いてくれた姿に頭が下がりました。

想定外の出来事が起きたときには、少なく未確定な情報をもとに判断し行動せざるを得ないことも多いため、普段あまり意識して来なかったことが目に見えてきます。今回、当病院では患者さんに危険が及んだり、大きな不自由をおかけすることなく済みました。これは勿論病院としての備えが機能し、上記のような職員の努力があったお陰ではありますが、それに加えて、地震、停電発生が深夜であったことと、停電が16時間で復旧したことが大きく幸いしたということも深く肝に銘じなければなりません。

運営側としては、今後は長期停電を想定して、自家発電の燃料保持の再検討、重篤な患者さん、透析患者さんたちへの対応についての振り返り、情報収集ルートの確認、構築等より一層の備えの見直しが必要であることを認識しました。

今回のような出来事がおきると、人は一般に緊張と不安を抱えながらも不思議な高揚感を持って頑張ることが出来ます。しかしそのあとにその反動のように疲れと空虚感に襲われることがあります。さほど大きな被害を受けなくても同様のことが起きると言われています。

組織も個人もそういったことを心に留め、互いを気遣いながら、今後も病院一体となって、平時にも危機にも頼りになる病院作りに邁進して行きたいと考えておりますのでご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

災害支援ナース活動

2病棟 中村 真希



今回、災害支援ナースとして初めて、3泊4日でむかわ町の避難所、四季の館に行かせて頂きました。北海道看護協会としても初めての災害支援でした。私たちの役割は2人1組で活動し、看護専門職の災害時支援者として、被災した看護師の心身の負担を軽減し、被災者の健康レベルを維持できるように、被災地で看護を提供することでした。

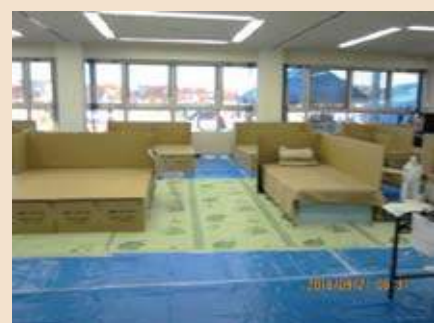


被災後13日目からの活動でしたが、夜間の避難者数は130人近くと依然、多くの方々が避難所に身を寄せていました。日ごとに疲労感が増し、子供たちも遊び場がないためか廊下を走り回り、毎晩のように乳児の夜泣きが聞こえる状態でした。しかし、このような状況でも苛立つ様子を見せる方はおらず、助け合いの精神を持って行動されていました。自衛隊の方々による炊き出しの際には、動ける方が自分の分よりも先に、シルバーカーや杖などの補助器具が必要な高齢者の分を取りに行かれていたのが、とても印象的でした。



今回の支援業務は救護所の夜勤であったため、被災者の方々と直接関わる時間は多くはありませんでしたが、限りある物資を活用しての活動は、病院での日常業務とは異なり、どう介入するべきかとても考えさせられました。発熱や咳漱といった風邪の症状にはルルやバファリンといった市販薬の提供しかできず、便秘薬は配備されていないため、食物繊維の粉末食品で対応していました。生活必需品にも限りがあり、特に水は、蛇口から出るものの飲み水としては

利用できず、必要時に各自がミネラルウォーターを提供の場から持って行く状況でした。家は全壊、半壊の方もおられ、ストレスが軽減されていないなか、世帯状況確認表に記載するための情報をどう聞き出すか、被災者の方々の傷つけない話し方に悩みながらの対応でした。しかし、どの方も大変快く協力してくださいました。



また、勉強になったのは保健師の方の視点の広さでした。加湿器の手配や、子供たちの様子を見てプレイルームの設置や勉強する環境の整備を提案したり、感染予防や家族構成からベッドの配置の検討・実施を行い、さらに避難所以外の被災者の方々の健康状態まで把握されており、常に五感を働かせての活動の重要性を学ばせていただきました。



被災された皆様と御家族の方々にお見舞い申し上げますとともに、被災地の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

施設見学 ～札幌市立ひばりが丘小学校～

6月15日(金)に、札幌市立ひばりが丘小学校の3年生の生徒・先生・引率者の方含め14名の皆さんが、「校区探検活動」として、当院の施設見学で来院されました。

地域の施設や店舗の様子を見学することで、社会のしくみや仕事を目的としているとのことでした。

11時過ぎに院内に子どもたちが来院されると、一気に普段の院内とは違った賑やかな雰囲気となり、患者さんも少し驚いた様子でしたが、微笑んで子どもたちを眺めていました。

看護部長・事務部長の案内で、薬剤科・栄養科・放射線科・手術室・3病棟など、院内各所をまわり見学しました。

薬剤科では注射調剤室をひとりひとり見せてもらい興味津々でした。栄養科では調理室で作っているコーヒーゼリーを見て「おいしそう!」と楽しそうに話していました。

放射線科では放射線システムの画像を代わる代わる覗き込み、たくさんの質問をしていました。

手術室では看護師に手伝ってもらい、専用のサンダル・手術着・手術帽を身に付け、中には手術帽がとても気に入ったようで、そのまま被って帰った子どもも何人かいました。



3病棟では、子どもたちが一生懸命、代わる代わる看護師に質問をしていました。

どれも大変興味深い質問でしたので、いくつかの質問と回答をご紹介します。

Q：1日に何人の人が病院を利用しますか？

A：200人くらいです。

Q：病気を治せないときもあるのですか？

A：そういう時もありますが、患者さんが出来るだけ辛くないように対応しています。

Q：どうしてこの仕事をしようと思ったのですか？

A：人助けがしたい。人の役に立ちたいと思ったからです。

Q：病気を治す以外にしていることはありますか？

A：お風呂やお食事の介助など、患者さんの手助けです。

Q：病院で大切にしていることは何ですか？

A：患者さんと一緒に考え、少しでも元気になるように心掛けています。



学会参加報告

平成30年度 北海道看護研究学会

6月24日(日) 会場：札幌コンベンションセンター

手術室 桐生 麻衣

【演題】 「A病院の手術室看護師が感じる
仕事におけるやりがいと影響要因」

平成30年度 札幌第3支部看護研究発表会

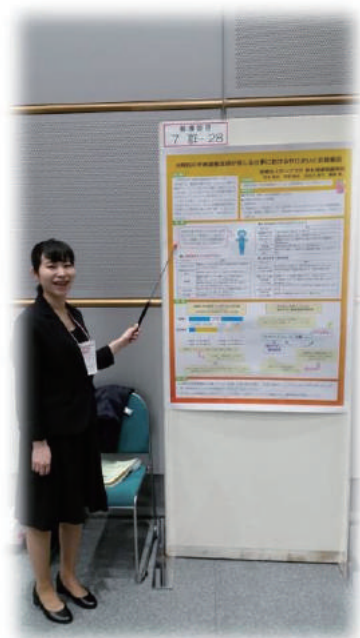
7月14日(土) 会場：ホテル エミシア札幌

透析室 伊藤 智子

【演題】 「透析患者のリン吸着薬における服薬実態調査」

2病棟 遠藤 由佳

【演題】 「A病棟での2交替・3交替勤務が混在することによるストレス調査」



消火・避難訓練

9月25日(火) 15時より、当院2階中庭・廊下にて、平成30年度消火・避難訓練を実施し、各部署より訓練体験者・見学者あわせて16名が参加しました。

消火器の中には通常は専用の粉が入っていますが、今回は訓練のため、中に水が入っている物を使用しました。最初に専門業者の方より消火器の取扱・使用方法の説明があり、訓練へと移りました。

実際に火災が起きた際には、消火器を使用する前に「火事だー！」と周囲に知らせることが大切とのこと。次に、消火器の安全栓を外しホースの先端を持ち、レバーを強く握る。油火災では近くで噴出すると油がはねるため、3~4m手前からかけ始め、徐々に炎に近づく。油・電気火災など、消火器はどんな火災でも使用できるが、10~15秒しか出ないため、壁やカーテンに火が燃え移った時など、大きな火災では消火が難しいので速やかに避難すること、などを学びました。

次に、院内に備え付けてある緩降機(オリロー)にて訓練を実施しました。この装置は、階段が使用できない状態(すでに煙にまかれて逃げられない状況など)に窓から避難する際に使用するもので、実際に2階の窓から2名が脱出訓練を行いました。約5mの高さからおそるおそる降りていましたが、スピードはゆっくりで、安全性を理解することができました。全職員が、災害時に冷静かつ安全に患者さんを避難させることが出来るよう、これからも訓練を続けていきます。



医療安全研修会開催

医療安全管理者 手術室科長 藤原 睦

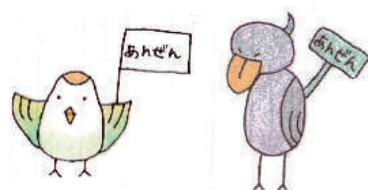


全職員を対象とした平成30年度の第1回医療安全研修会を開催しました。「わが国の医療安全の管理の歩みと取り組み」(6/13)、「医療安全に結び付くチームワーク強化ストーリー」(6/20)と2日間に分け、合わせて113名の職員が参加し、研修会場は満員となりました。



ここ最近、医療の成果を上げるためにチーム医療の重要性が叫ばれています。ここでいうチーム医療とは「各種の専門家が専門的知識を駆使して連携しながら、患者さんの診療にあたる」という診療面での取り組みであり、医療安全と患者安全は結び付けて考えなくてはなりません。

これからの医療安全は、成果と安全性の向上というチーム医療の真の目的を理解し、それに関わる全員の満足度を高めることなしには成り立たないといえます。今後も定期的に研修を行い、安全性の向上に努めていきたいと考えています。



医療安全イメージキャラクター

神吉院長 講演会のご報告

7月17日(火)に行われた「市民健康教育」にて、神吉院長が「心不全の予防と治療～いつまでもヤングマン～」をテーマに、講演を行いました。この催しは、厚別区の健康づくり事業の一環として、健康に関する正しい知識の普及を図る目的で毎年行われており、今回は、140名ほどのたくさんの参加者にお越しいただきました。

また、8月25日(土)には「足腰鍛えて、心臓鍛える～簡単な運動で老化を防止しよう～」をテーマに、西藤野町内会館にて、茜老人クラブ、町内会のみなさん総勢36名にお集まりいただき、出張医療講演を行いました。老化に伴う足腰の筋肉変化に関するお話から始まり、心臓病と運動の関連性のお話、正しい運動の方法を参加者のみなさんに実際に行っていた場面もありました。講演後の質疑応答ではたくさんのご質問をいただき、みなさんに大変興味を持っていただくことが出来たと思います。当院では、出張医療講演会を無償で開催しておりますので、是非、お気軽にご相談ください。



医療のげんば紹介

【3病棟編】

第7回目は、3病棟のお仕事を紹介いたします。

Q：「3病棟」とは、どのような病棟ですか？

A： 循環器疾患の検査・治療、糖尿病、透析導入、一般内科や腎臓内科の患者さんが入院されている病棟です。医師・薬剤師・栄養士・MSW（医療ソーシャルワーカー）・理学療法士などと連携し、カンファレンスを開催し、個別性のある患者さんの看護に、日々取り組んでいます。

Q： 看護師の特徴や、病棟の雰囲気教えてください

A： 当院は、札幌市の「ワーク・ライフ・バランス」の取り組み企業として認証されており、ママさんナースが多い病棟です。お互い協力しあいながら、楽しんで働ける職場環境作りに全員が努力している病棟です。向上心があり、褒め合い、感謝の気持ちを表現しあえる！そんな、明るく活気のある病棟です。



<3病棟よりみなさんへ>

私たちは、患者さんの不安を軽減できるよう、常に心掛けております。入院生活や治療などについてご心配・不明な点などがございましたら、お気軽にお声掛けください。親切・丁寧にご説明いたします。

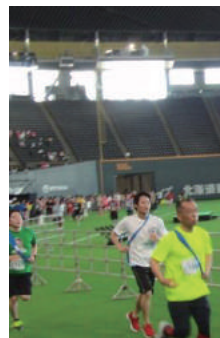
マラソン大会参加の記録

7月8日（日）6時間リレーマラソン 2018

42.195 km（男子・男女混成）

記録（3：15：01） 74位／806

細谷 好美 佐々木 裕也 宮田 裕介 清水 栄一



8月26日（日）北海道マラソン 2018

42.195 km

清水 栄一 記録（3：07：35）

登録競技者男子 428位／1789人中

山田 陽一 記録（3：43：40）

一般競技者男子 1467位／9103人中

神吉 和重 記録（3：51：51）

一般競技者男子 2013位／9103人中

細谷 好美 記録（4：24：59）

一般競技者女子 641位／1686人中



西日本豪雨災害募金について

6月28日から7月8日までにかけて、西日本を中心に、北海道や中部地方など全国的に広い範囲で発生した集中豪雨は、甚大な被害を及ぼしました。

当院では、職員からの善意の募金 27,158 円 を、平成30年7月豪雨災害義捐金に送金致しました。

被災された皆様、ならびにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。

皆様の安全と被災地の1日も早い復興を、心よりお祈り申し上げます。

藻岩山登山

レクリエーション委員 上林 勝利

平成30年6月23日（土）に、毎年恒例の藻岩山登山に行ってきました。

当日の天気はくもり、気温は26度でしたが、この時期には暑すぎず、風がとても気持ちの良い登山日和となりました。今回は途中で適度に休憩を取りながら、みんなで景色を楽しみながら、ゆっくりと登りました。

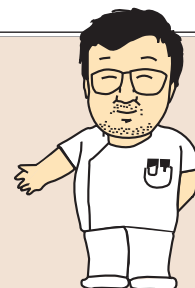
山頂に着いた時には心地よい疲れがあり、札幌の街並みも一望することができました。登山後は懇親会を行い、美味しいお料理で話も弾み、和やかな雰囲気ですべてを終えました。登山と懇親会あわせて、職員とご家族、関連業者の方々総勢20名の参加があり、今年もとても楽しい会となりました。



金博士の

『本音で語ろう』 75

“高令者と社会環境”



ひとり暮らしの高令者を施設に入れてあげたいが、本人が納得しないので困り切っている、という相談をよく受ける。ご本人の状況をよく聞くのだが、ひとり暮らしがよいと思っている人は多い。なかには便失禁が常態化したり、火災やガス爆発の危険がせまってくることもある。

施設への入居を本人にすすめるのだが、自覚がない。同意していないのだけは伝わってくる。家族の心情を察して同意してくれる場合も多いのだが、同意してくれないと、かかり付けの医者としては、いつまでも心にひっかかる。同意してくれても、本人の選択の自由がなかったのではないかという自責感が残る。

長寿社会に突きすすんでいる今日、高令者の基本的人権に向き合うときがきている気がしてならない。社会的議論を尽くし、高令者の安全と安心が保障される環境と基準づくりが必要になって来たようだ。

人間は、長生きしても必ず人間らしくいられますように。

総合診療科 金 有世

お知らせ

「インフルエンザワクチン予防接種」

10月22日（月）より、インフルエンザワクチン予防接種を実施いたします。予約は必要ありませんので、ご希望日当日の下記受付時間内に、受付にてお申し出下さい。なお、在庫がなくなり次第、終了とさせていただきますのでご了承下さい。

【対象】 高校生以上のすべての方（予約不要）

【期間】 10月22日（月）～ 1月31日（木）

【受付時間】 午前 10：00 ～ 11：00 / 午後 14：30 ～ 15：30

※ 診療受付時間内であれば、上記時間以外でも接種できますが、お待ちいただく時間が長くなる場合がございますので、ご了承下さい。

【料金】 1回 3,000円（税込）

<札幌市在住の65歳以上の方など>

1回 1,400円（税込）

※ 接種期間は、上記の期間と同様です



外来担当医診療予定表 (平成30年10月20日現在)

	月			火			水			木			金			土		
午前	予約制	予約制		予約制	予約制		出張医	予約制	予約制	出張医	予約制	予約制	予約制	予約制	予約制	医師交代制	総合診療	金
	腎臓内科 総合内科	腎臓内科 総合内科	総合診療	北大 納谷	神 吉	大 坪	縄 手	馬 場	大 坪	北大 鎌田	佐 々 木	神 吉	山 田					
午後	予約制	予約制	予約制	予約制	予約制		予約制	予約制		出張医	出張医		出張医	出張医	出張医			
	腎臓内科 総合内科	腎臓内科 総合内科	腎臓内科 総合内科	腎臓内科 総合内科	腎臓内科 総合内科	北大 納谷	馬 場	佐 々 木	山 田	北大 鎌田	消化器科	3:00迄	藤 井	清 水	佐 藤			

診療受付時間

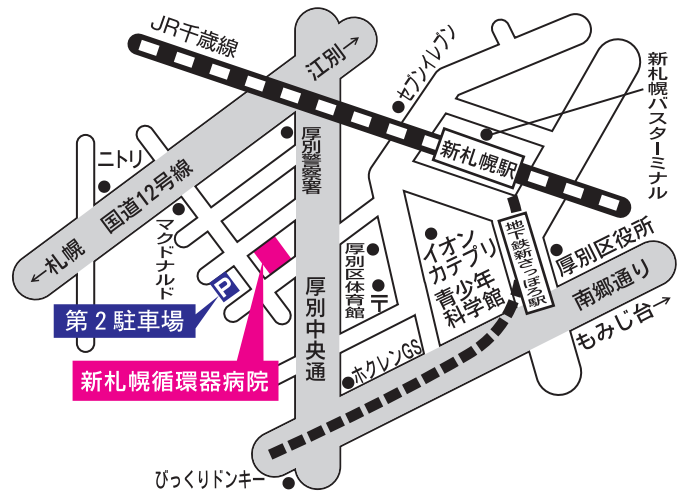
平日	午前	8:45 ~ 11:30
	午後	1:30 ~ 4:30
土曜日	午前	8:45 ~ 11:30

- * 新患受付時間 午前 8:45~11:00
午後 1:30~3:30
- * 土曜日は午前だけの診療となります。
- * 循環器救急のお問い合わせは24時間対応しています。

診療科目

- 心臓血管外科 人工透析内科
- 循環器内科 胸部外科
- 腎臓内科 リハビリテーション科

病院案内



■ 札幌市厚別区厚別中央2条4丁目9番25号
TEL 011-892-1556

■ 地下鉄 (5番出口) ・ JR ・ バスターミナルより徒歩5分

■ 面会時間 平日 午後 2:00 ~ 午後 8:00 / 土日祝 午前 11:00 ~ 午後 8:00



お車で
ご来院の
患者様へ

病院横駐車場 (18台) / 第2駐車場 (18台)

- ・ 当院駐車場に隣接して月極駐車場がございますので、お間違えないようご確認ください。
- ・ 近隣住民の方々へご迷惑となりますので、駐車場内ではエンジンをお切りください。

■ ホームページ随時更新しております。ぜひ、御覧ください。 <http://www.sshoc.jp>